

# 本を選ぶ

NO.432 2021年(令和3年)5月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん> Ruby -終-

●司書の眼 第44回

●いつでもどこでも新刊と出合える選書ツール

●534種を掲載—『新版 日本のハゼ』の刊行にあたって

●選書の法則:S.R. ランガナタンからの187のメッセージ(15)

●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

## Ruby -終-

古い資料に紛れ込んだまっさらな原稿用紙の束が出てきた。子どもの頃の作文の宿題に始まり、学校の卒業論文はもちろん、とにかく原稿を書くのに不可欠だった。だが、その枠目を埋める作業がすなわち執筆だった時代はもはや過ぎてしまった。ワードプロセッサが登場し、やがてパソコンで一太郎やWORDなどのアプリケーションを使うのが普通になると、原稿用紙に向かってうんうんうなりながら文字を書くという人は少なくなった。ワープロソフトは1行の文字数、頁毎の行数などの組み体裁も整えてくれる。ルビとか圏点の指定も簡単だ。

ワープロは、仮名で入力すれば漢字の変換候補を表示し、送り仮名も正しく振ってくれる。昨今は、スマートフォンでも同等の変換機能が標準となっている。すると漢字が思い出せず書けなくなり、送り仮名に迷い、正しい日本語がおぼつかなくなってしまう。文字を書く機会が極端に少なくなったのだ。自嘲も込めて言えば、これが便利の裏返しなのかとすら思う。

漢字やその他の表記が不安になってしまうと、用字辞典に頼る。ウェブでも簡便に検索できるようになった。手に取る機会がめっきり減ってしまっ

た用字辞典は、原稿用紙の時代には表記の統一や送り仮名の確認のために必携だった。

寄稿する誌面によっては、原稿執筆規定、あるいは投稿規定として、用字用語の統一についての指定がある。うるさいところでは序数の扱い方やカタカナ語の基準、音引き表記まで、詳細に及ぶ。

各新聞社が自社の記者全員に配布する用字・用語の手引きが、一般にも市販されている。図書館の棚にはずらりと並んでいるはずだ。報道機関・新聞社系では、時事通信社『最新用字用語ブック』、朝日新聞社『朝日新聞の用語の手引』、読売新聞社『読売新聞用字用語の手引』、日本放送協会『NHK漢字表記辞典』。字典などを出版する版元も、三省堂『現代国語表記辞典』、『必携用字用語辞典』、講談社『日本語の正しい表記と用語の辞典』などがある。言葉は常に変遷していくから「常用漢字表」が改訂されれば、それに準拠した新版が出る。

知人の編集者はかつて毎日新聞社版『毎日新聞用語集』を持ち歩いていた。毎日は校閲などに熱心な新聞社なのだとも言っていた。

その毎日新聞が4月13日夕刊の誤りについて、『放出基準を超えている』とあるのは『放出基準を超えている』の誤りでした」と訂正記事を掲載した。福島原子力発電所関連の記事で「政府、汚染処理水の海洋放出決定」という見出しの記事でのくんだり。誤りの理由は示していない。酷似した字形の故に見落としがちとは思いますが、これはどんな経緯で誤字となり、そして見過ごされたのか。単純なミスだとしても全く不可解だ。(埜村 太郎)

# 司書の眼 第44回

## —ペトリコール、フォーラー・ネグレリア—

鷹野 祐子

### 放線菌の香り

昨日は雨だった。降ったりやんだりのお天気で、実家の庭の雑草を抜くのちょうどいい塩梅であった。雨がこれから降るときには、おまじないのような予兆がある。たとえばキジバトが「デデーポッポー」と鳴いていたり、ツバメが低く飛んでいた。これから降り出すぞ、というような黒い雲を見上げると、ふっと雨の香り。この香りはギリシャ語でペトリコール（石のエッセンス）というのだそうだ。ギリシャの石畳に雨がポツッ、ポツッ、と丸形をつけるときに発生するエアロゾルが、表面にあった植物の油分や細菌の成分を一緒に舞い上げる。大学時代、土壤中の微生物を調査し抗生物質を作る菌を探す研究をしていた教授は、この香りを「放線菌の香り」と呼んでいた。放線菌とは細長い桿菌で、菌糸を放射線状に伸ばしていくのでこの名前が付いたが、今の研究では菌糸がないものも球菌もあるそうだ。放線菌は主に土壌中にいて、有名なところでストレプトマイシン、バンコマイシンなどの抗生物質を産生する。人間にとっても口腔、咽頭、腸管にいる常在菌で、免疫力が低下したりすると活性化する病原菌である。

このペトリコールという言葉自体は1964年のNatureに掲載された論文で使われた造語であり、大雑把に訳すと「ペトリコールはいろいろなものがまざった固定の香り」と論文中に書かれている(BEAR, I., THOMAS, R. Nature of Argillaceous Odour. Nature 201, 993-995 (1964). <https://doi.org/10.1038/201993a0>)。また、同じチームの1965年の続報(BEAR, I., THOMAS, R. Petrichor and Plant Growth. Nature 207, 1415-1416 (1965). <https://doi.org/10.1038/2071415a0>)では、この雨の香りが植物の生長を促すと思いきや、逆に植物の生長を抑制する作用をもつという論文が発表されている。日照りが続いた土地での最初の雨の香りというのは、「雨が降ってきたけど成長するのはちょっとまって。今成長してしまうと、

すぐ雨が止んだときに干上がってしまうよ。もうちょっと慎重に成長する時期を待とう。」というメッセージを送っているのかもしれない。こう書いていくと、雨の香りはまったく詩的ではないが、かの米津玄師にも「ペトリコール」という曲があるので、暗い曲が好きな人はぜひ聞いてみてほしい。梅雨になると思いだすのは、鎌倉の明月院（あじさい寺）だ。北鎌倉駅を降り、なだらかに続く坂道を進むと、階段の両脇からなだれ込むように青い紫陽花が咲いている。梅雨が来ると、青い紫陽花と大量のカタツムリ、女友達と来た時に食べた北鎌倉駅近くの日本料理屋の会席膳が走馬灯のように思い出されるのである。

### ストーンサークル

図書室に立ち寄った先生が、中沢新一の『アースダイバー』(2017/講談社)の新刊『アースダイバー 神社編』(2021/講談社)を熱く語って去っていった。ダイバーとはスクーバダイビングをする人のことまたは潜水士のこと。アースダイバーって土を掘削して地中に入っていく人?と思いがら聞いていたら、そうではないらしい。「ちょっと浅く掘ると色々出てくるんだよ」というので、「アースダイバー 神社編」なんて、人骨がたくさんできそうですね、と返したら、そういうことでもないという。つまり、「中沢新一が提唱する「アースダイバー」は、縄文期(地質学では「第四紀」)の地図を現代の東京や大阪に重ねることで、古代からの地勢がそれぞれの街の成立にいかに深く関わっているか明らかにしてきた”(Amazon『アースダイバー 東京の聖地』商品説明より)ということで、東京や大阪の地図から、現代と過去へのタイムトライアルができる本らしい。NHKの「プラタモリ」みたいなものかなあ、と思って聞いていた。その熱い先生は日本人の起源に大変興味を持っている人で、「日本にもストーンサークルがあったんだよ!」からはじまり、一般に神社や寺などは南

から渡来人が入ってきてからとなっているが、渡来人が来たときに東北方面に逃げた縄文人もそういう宗教的なことをしていた、と言う。証拠に、秋田県北東部に位置する鹿角市にストーンサークル（大湯環状列石）が残っており、ストーンサークルの近くにニョキッと石が立っている遺跡（日時計状組石）は夏至を知らせる役目をする。縄文人の祭事について調べていくと、どうやら冬至と夏至にお祭りをしていたのだが、東北は雪で冬至にできないので夏至にお祭りをしたのではないかという。東北の縄文文化か。お城巡りもなかなかできないけれど、今度は北を目指し、東北歴史ツアーもおもしろそうだな、と思う。何しろ、温泉もあるし。去年の今頃も外出自粛期間であったが、来年くらいにはどこかに旅行できるような世の中に戻ってほしいものだ。ほかにも、日本人の root はタイにあるスダランドで北方から日本に来たのだと、地図で説明してくれた。が、もちろん私は仙台のずんだ餅のことしか頭に浮かばなかった。

### 「いいえ、夏みかんですよ」

外出自粛といえば、今年の今頃は小学校も休校で、こどもたちを連れて毎日川へ行き、モンシロチョウを捕まえていた。モンシロチョウには「チョウの道」というがあるので、じっと観察しているとそれを見つけることができる。チョウがいなくてもチョウの道に潜んでいると必ずチョウはやってくる。捕まえたモンシロチョウは水槽の中に入れ、毎日砂糖水をのませていると卵を産んでくれたので、青虫から無事成虫にするという体験をすることができた。

近所の浅い川でとってきた川エビは、その後どんどん増殖し、おまけにアメーバも石にくっついて入ってきてしまい、「フォーラー・ネグレリア」といういわゆる脳を食べるアメーバを思い出した私は、一番多きな1匹がお亡くなりになったときにみんな川に返してしまった。思えば、休校中は楽しい日々であった。

「この4月からお嬢さんは学校には来て机に座っているが、まったく授業に参加していません」と

担任の先生から電話がかかってきた。工作用のりでアートを制作したり、折り紙で何かを作っていたりと、授業と全く違うことをしています。テストも受けてくれません。これからの学習についてどのように進めたらいいか相談させてください、という。家では全く普通なので気にしていなかったが、高学年になってきて「読み書き障害（ディスレクシア）」が授業に大きく影響するようになってきた。そこで特別支援の先生と一緒に面談をした。家では授業中にこんなことをやったとか国語のお話しは面白かったと話すので、授業に参加していると思っていたが、実はほかのことをしながら耳でだけ聞いていたらしい。門前の小僧習わぬ経を読むとはこのことである。特別支援の先生の話でも、協働活動では積極的に参加する風でもなく何も話さないが、個別指導のときに内容を聞くとちゃんと聞いている。そして、与えた課題はしないが、自分が選んだ課題はしぶしぶする、ということがわかった。家でもお菓子などで釣るとちゃんとルーチンはするので、ご褒美制がいいかもしれない、となって、担任の先生曰く、「学級での学習方針がちょっと前進」した。

### Do the hokey pokey

小学校の学習はとても網羅的で、小さなことから大きなことまで、学年が上がるにつれ年々学ぶ内容が増えていく。でも、本当の学習というのは、root sense（根源的意味）を教えることだけでいいのではないかと思う。モンシロチョウは昆虫で足が6本、身体は頭部胸部腹部の3つに分かれている、なんてことをテストで筆記するよりも、モンシロチョウに餌をやって育てたほうがずっとモンシロチョウのことに興味を持てるし、なんといっても楽しい。筆記テストはクロームブックに任せて、学校の先生はだれもが楽しい授業をしてもらえたらと思うのである。確かチョウの道の情報は、国語のテストの長文読解から得た。その学習が楽しく、その子に興味があれば、得られた情報からそれぞれが深く掘り下げていくものなのである。

（たかの ゆうこ：医学系研究所図書室）

# いつでもどこでも新刊と出合える選書ツール 「NetGalley(ネットギャラリー)」

藤吉 信仁

「NetGalley (ネットギャラリー)」は2008年に米国 Firebrand Technologies 社が開始した web を使った書籍の販促サービスです。日本版は、2017年にリリースされ、株式会社メディアドゥが運営会社として事業展開を行なっております。現在は、米国、ドイツ、フランス、日本、イギリスでサービス展開されています。

NetGalley のサイト (<https://www.netgalley.jp/>) では、出版社が掲載した発売前の本のグラやおすすめの新刊本を閲覧することができます。サービスを利用するには無料の会員登録が必要です。(出版社は掲載料がかかりますが、会員は無料で利用ができます。)

登録後は掲載作品に閲覧リクエストができるようになり、出版社にそのリクエストが承認されると、作品の全文データがダウンロードできます。閲覧後は、サイトを通じてレビューや評価を出版社に直接届けることができます。出版社は会員からのフィードバックを、販売展開やプロモーションで活用します。新刊書籍が全文閲覧できるツールとして選書の下読みなどに活用いただけます。また、ダウンロードデータには、印刷不可、コピー不可、55日間の閲覧制限など、セキュリティがかかっているため、データの取り扱いにもご安心いただけます。

2021年5月時点では、60社の出版社が利用しており、約220点の作品がリクエストを受け付けています。出版社はいつでも掲載作品を更新することができますため、サイトには常に新しい作品が掲載されています。登録会員数は約7,800名、5タイプの会員から構成されています(図書館関係者、教育関係者、書店関係者、メディア関係者、一般レビュアーの中から登録時に属性を選んで登録します)。特に、直近の2年間では、図書館関係者と教育関係者の登録者数が、3.5倍へと大幅増加しており、現在では約1,500名の登録者数となりました。

図書館関係者と教育関係者の登録が日々増えている背景として、新型コロナウイルスの影響により、

全国の新刊図書展示会の開催中止が相次いだことが挙げられます。事前に見本を手にとって、内容を確認する機会が激減してしまった昨年、各出版社はネットギャラリーに絵本や児童読み物、学習資料書籍などの掲載を積極的に行ない、図書館関係者へ新刊情報を提供しました。エリアによっては、展示会の

会場が遠方で行けなかったり、近くに書店がなかったりと、日々大変な思いをして新刊情報を収集されていた方も、ネットギャラリーを利用することで、いつでもどこでも新刊情報を得ることができるようになりました。

また、2021年1月にリリースした公式閲覧アプリ「NetGalley Shelf (ネットギャラリーシェルフ)」も新規登録者の拡大の後押しとなっています。これまでネットギャラリーでダウンロードした本文データは、外部サービスのIDを取得し、リーダーアプリに認証させるなど、閲覧ができるようになるまでに複数のステップがあり、その煩雑さに苦労される方も多くいました。しかし、公式閲覧アプリを使うと、外部サービスへの登録は不要となり、ネットギャラリーのログインIDを使って初期設定を行なうことで閲覧できるため、ユーザーの負担が大幅に軽減されました。閲覧アプリは、現時点ではベータ版としてリリースをしており、ユーザーからの声を集めて、さらなる改良に努めています。

出版社はプロフェッショナルな読者である図書館関係者や教育関係者からの閲覧リクエストを待ち望んでいます。レビュー投稿をきっかけに出版社と繋がりができることも、これからの活動において大変心強い存在になっていくのではないのでしょうか。様々な作品が掲載されていますので、まずはサイトにアクセスいただければ幸いです。登録や利用でご不明点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。(ふじよし のぶと:株式会社メディアドゥ)

NetGalley : <https://www.netgalley.jp/>  
NetGalley サポート : [support@netgalley.com](mailto:support@netgalley.com)  
登録画面は右のQRコードから



## 534種を掲載—『新版 日本のハゼ』の刊行にあたって

矢野 維幾

1990年代以降、スキューバダイビングは手軽なレジャーとして若者から年配の方まで多くの人たちを楽しまれるようになり、ダイバー人口も飛躍的に増加した。それとともにダイビングスタイルも多様化し、さまざまに楽しめるようになった。そのなかで最も愛好者が増えているのが水中写真の撮影とフィッシュウォッチングである。この2つがダイビングの主流といっても過言ではない。当時、水中撮影用の機材が充実したことや、魚類図鑑をはじめ数多くの図鑑類が相次いで出版されたことも大きな理由と思われる。

そして水中写真の被写体や、フィッシュウォッチングの対象としてとくに人気が高いのがハゼの仲間だ。ハゼは地味なイメージが強く、一般の人々にはあまり馴染みのない魚だが、姿や色彩の美しい種も多く、ダイバーの間では根強い人気があり、私を含めハゼに魅せられ深みにはまってしまいうダイバーも少なくない。私たちが夢中にさせるハゼの魅力はほかにもある。2000年当時、未記載種を含めると550種は越えると思われる種数の多さがその1つだ。そして未記載種や日本初記録種の発見は続いており、種数はさらに増えると思われた。

このように、美しさ、種数の多さ、生息環境の多様さ、生態の面白さなど、魅力が多く人気の高いハゼだが、分類学的研究が進み種数も増えていくなか、私たちが利用してきた写真図鑑には未掲載の種も多くなり、検索や参照に不便を感じるようになってきた。そうした状況を考え、最新の情報を記し、できるだけ多くの種を盛り込んだ、フィールドでも手軽に使えるハゼだけの写真図鑑がつかれないだろうかと企画したのが2004年に刊行した『決定版 日本のハゼ』だった。

生き生きとした自然な体色や、背景に写る生息環境などのフィールド情報も、検索や参照に必要な不可欠で重要な情報と考え、写真はすべてフィールドで

撮影した生態写真だけを使用した。また、撮影地についても国内産と外国産の近似種との混同や混乱を避けるために、すべて国内に限っていた。

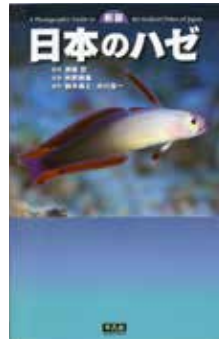
制作にあたっては実に多くの方々に、さまざまなかたちで協力をいただいた。とくに生物学研究所の池田祐二氏には、種の同定や貴重な情報の提供、助言など多大な協力をいただいた。ご多忙中にもかかわらず難解な種の同定を快く引き受けていただき、多くを解決することができた。

写真に関しては、長年携わってきた私の本業であるダイビングガイドの仕事を通して知り合った友人や知人など、多くの方々に本書の主旨に賛同していただき、貴重な写真を快く提供していただくことができた。このような協力がなければ、フィールドでの生態写真で撮影地は国内、という制約のなかで470を越える種数を

掲載することなどとても不可能だったと思う。

『決定版 日本のハゼ』の刊行から16年が経ち、新訂・増補版として『新版 日本のハゼ』を2021年2月に刊行することができた。2020年3月までに、旧版収録種のうち学名変更があった種が147種（うち74種は新種記載にともなう）、新和名の提唱があった種が78種など多くの変更があった。また多くの日本産のハゼが新たに撮影された。その結果、新版では国内未記録種もしくは未記載種を83種収録し、総数534種を収録することができた。2020年3月時点における日本産ハゼ亜目魚類の総数は661種であることから、約8割を収録できたことになる。この新訂・増補版刊行でも多くの方々に協力いただいた。

ハゼは淡水から汽水、海水域まで分布し、河川・湖沼から海岸・サンゴ礁などに暮らし、多彩で多様な生態をもつ魅力にあふれる魚である。生物多様性を示す、たいせつな生きものの素晴らしさをぜひご覧いただきたい。（やの これちか：写真家）



『新版 日本のハゼ』  
監修／矢野維幾  
写真／鈴木寿之・洪川  
浩一 解説／A5変型／ソ  
フトカバー／588頁（カ  
ラ）／528頁・モノクロ60  
頁／定価4,400円（税込）  
／2021年2月／平凡社

# 選書の法則：

## S. R. ランガナタンからの187のメッセージ (15)

吉植 庄栄

### 15. 転職4年目

今は昔、当連載に転職の経緯や心境等を書いた。その後、講義運営と学生指導に追われて気づくとあっという間に転職後4年目になっていた。この間、本誌へには多忙で何も書くことができなかった。しかし様々な背景があり、当連載を再開することにした。その申し出に応じて下さった編集部の皆様には、この場で感謝を申し上げたい。本号ではこの間の雑感を書き、次回から「ランガナタンの選書論」についての紹介を再開したいと考える。

#### (1) はじめての4年目

社会人になって23年、今まで3年以上同じ部署に居たことが無いが、この4月ではじめて4年目に突入した。以前の職場では必ず満3年で人事異動があり、硬直化を防いでいた（と思う）。相性が悪い仕事・人との付き合いも3年以内と割り切れれば確かに耐えられる。それに定期異動で興味ない担当を強制させられることにより、自分の秘めた潜在性が開花することもあった。若い内は、やりたいことばかりをやるのが幸せとは限らない。その当時の人事担当の皆様は心から感謝している。しかし前職の最後の方は、この恩恵よりも執着ある仕事から引き離される方がきつくなっていた。これから自分は嫌になるまでか定年まで、今の研究室の中で勤務する。この生活が長くなり、マンネリ化して行くのだろうか。人事異動が無いので、嫌になったら別の公募を見つけて応募せねばならない。

#### (2) 図書館業務に戻る

3年目の昨年のこと、学長から図書館兼任を命じられた。これは僥倖であった。多くの優秀なスタッフに支えられ、さらに充実した毎日を過ごしている。

それまでの2年間、困ったのは図書館現場の情報が入ってこなくなったことである。毎日自動的

に回って来た回覧（この『本を選ぶ』も）から得る図書館業界の動きは、びたりと入らなくなった。しかし、今は決裁箱の中に積まれる回覧が非常に有難い。失ってみてはじめて分ることも多い。

兼任初年度の去年は新型コロナウイルス感染症への対応が多く、東日本大震災時の経験を応用しつつ毎回無い知恵を絞った。特に『図書館学の五法則』に基づき閉館中、希望者に資料郵送を実施したことと、古巣を真似て最新情報を発信できるTwitterアカウントを導入したことが思い出深い。Twitterでは担当が私をしばしばネタにしてくれた。ここで晒してみたい（図1）。



図1 盛岡大学図書館 Twitter

<https://twitter.com/MoriDaiLib>、(参照 2021-05-05)

#### (3) 教材に使える当連載

当連載はS. R. ランガナタン『図書館選書論 (Library Book Selection)』第2版の内容を分かりやすく業界関係者に伝えたいがために、タイトルが適任なこの『本を選ぶ』に寄稿してきたものである。転職後これまで書き溜めた選書論を司書資格科目「図書館情報資源概論」の講義にて、受講生に読ませている。『図書館学の五法則』を真似て、ランガナタン先生と各法則くんたちが対話形式で紹介する選書の法則は、学生に読みやすく分かりやすいという反響を得た。これまで特に業界

---

からの反応は無かったが、初学者の教材としては非常に有効であることを実感した。

しかし第二法則までで中断していたため、受講生に続きを早く提供せねばと、どこかやり残した宿題のように感じていた。このまま絶筆にするには未登場の第三、第四、第五法則くに申し訳ない。転職の1つの理由に、ランガナタン先生の著作をより我が国の現場に届けたいという願いがあり、初心に戻りその仕事をやらなければと今更ながら思い始めたのである。

ランガナタン先生は、筆者が産まれた昭和47(1972)年の9月27日にこの世を去った。6月

産まれの自分から見て、今生を3か月間ご一緒したことになる。そして来年で没後50年である。筆者も50歳という節目に向けて、次世代の図書館員養成と職場の図書館運営に打ち込みながら、ランガナタン先生の残したものの研究を通し、我が国の図書館発展に一層寄与したい。今のところ、人生の正午を過ぎて豊かすぎる午後をお陰様で過ごせている。

**【予告】**「第三法則と選書：すべての図書にその利用者を」さあて、この次もサービス・サービス♪。

(よしうえ しょうえい：盛岡大学文学部)